

# 2022年3月期（第38期） 通期 決算補足資料



2022年5月9日  
テクマトリックス株式会社（コード：3762）



- ◆ 2021年3月期の有価証券報告書より、国際財務報告基準（IFRS）を適用しております。
- ◆ 本資料に記載される業績等については、原則すべてIFRSベースで記載をしております。ただし、2019年3月期（第36期）以前の業績等について記載がある部分については、それらは日本基準で記載をしております。



# 1. 通期 業績報告



◆ 売上収益、営業利益、税引前利益、親会社の所有者に帰属する当期利益いずれも **特殊要因を考慮した上で過去最高を記録。**

※特殊要因については、スライド6、スライド7をご参照下さい。

- ・ **クラウド型セキュリティ対策製品**の需要が引き続き拡大
- ・ **CRM分野の受注**の遅れが下期に**回復**

(単位：百万円)	21年3月期	22年3月期	増減額	増減率
売上収益	30,928	<b>36,513</b>	+5,585	+18.1%
営業利益	3,583	<b>3,734</b>	+150	+4.2%
税引前利益	3,406	<b>3,718</b>	+311	+9.2%
親会社の所有者 に帰属する 当期利益	2,301	<b>2,371</b>	+70	+3.0%



## テクマトリックスG各社の本社機能を集約 ※2022年12月移転予定

### 品川シーズンテラス

東京都港区港南1-2-70

竣工 2015/02

耐震種別 免震構造

建物構造 S造 地上32階/地下1階

基準階坪数 1504.38坪 (4,973.15㎡)



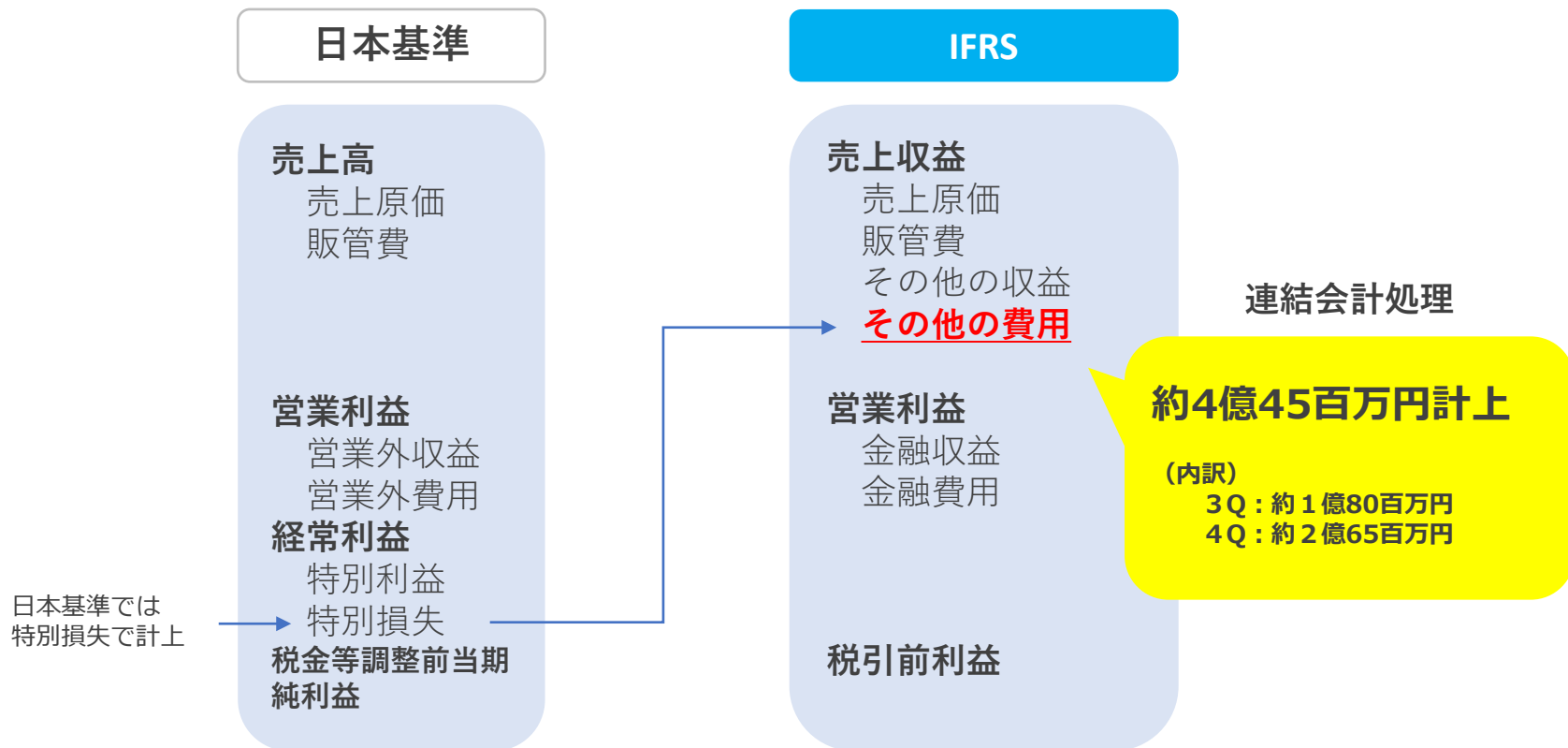
**【目的1】**  
グループ間連携を強化し中期経営計画の着実な遂行と持続的成長を実現する。

**【目的2】**  
在宅勤務の継続的活用とともに、創造的活動を促進するコラボレーションの場としてオフィスを再定義し、新しい働き方に対応したオフィス空間を構築する。

**【目的3】**  
災害時における従業員の安全確保と事業継続対応の強化を実現する。



- ◆ IFRS適用により、本社移転関連費用は「**その他の費用**」において計上処理を行っております（**営業利益に影響があります**）。
- ◆ 本3Q・4Q決算で計上した内訳は当社含む計6社分の現オフィスの資産除去債務対応資産を含む固定資産の減損損失です。





◆売上収益、営業利益、税引前利益、親会社の所有者に帰属する当期利益のいずれも特殊要因を考慮した上で**過去最高**を記録。

- ・ クラウド型のセキュリティ製品の需要が引き続き拡大
- ・ CRM分野の受注の遅れが下期に回復
- ・ 本社移転関連費用の発生 ※およそ**445百万円** 【特殊要因】
- ・ PSP株式会社の子会社化による2か月分の連結取り込み 【特殊要因】  
 ※売上収益:およそ**1,270百万円** ※営業利益:およそ**170百万円**

(単位：百万円)

	21年3月期	22年3月期	増減額	増減率
売上収益 (上段：PSP連結業績計上前) (下段：PSP連結業績計上後)	30,928	<b>35,243</b> <b>36,513</b>	<b>+4,315</b> <b>+5,585</b>	<b>+13.9%</b> <b>+18.1%</b>
営業利益 (上段：移転費用・PSP連結業績計上前) (下段：移転費用・PSP連結業績計上後)	3,583	<b>4,009</b> <b>3,734</b>	<b>+426</b> <b>+150</b>	<b>+11.9%</b> <b>+4.2%</b>
税引前利益	3,406	<b>3,718</b>	<b>+311</b>	<b>+9.2%</b>
親会社の所有者 に帰属する 当期利益	2,301	<b>2,371</b>	<b>+70</b>	<b>+3.0%</b>



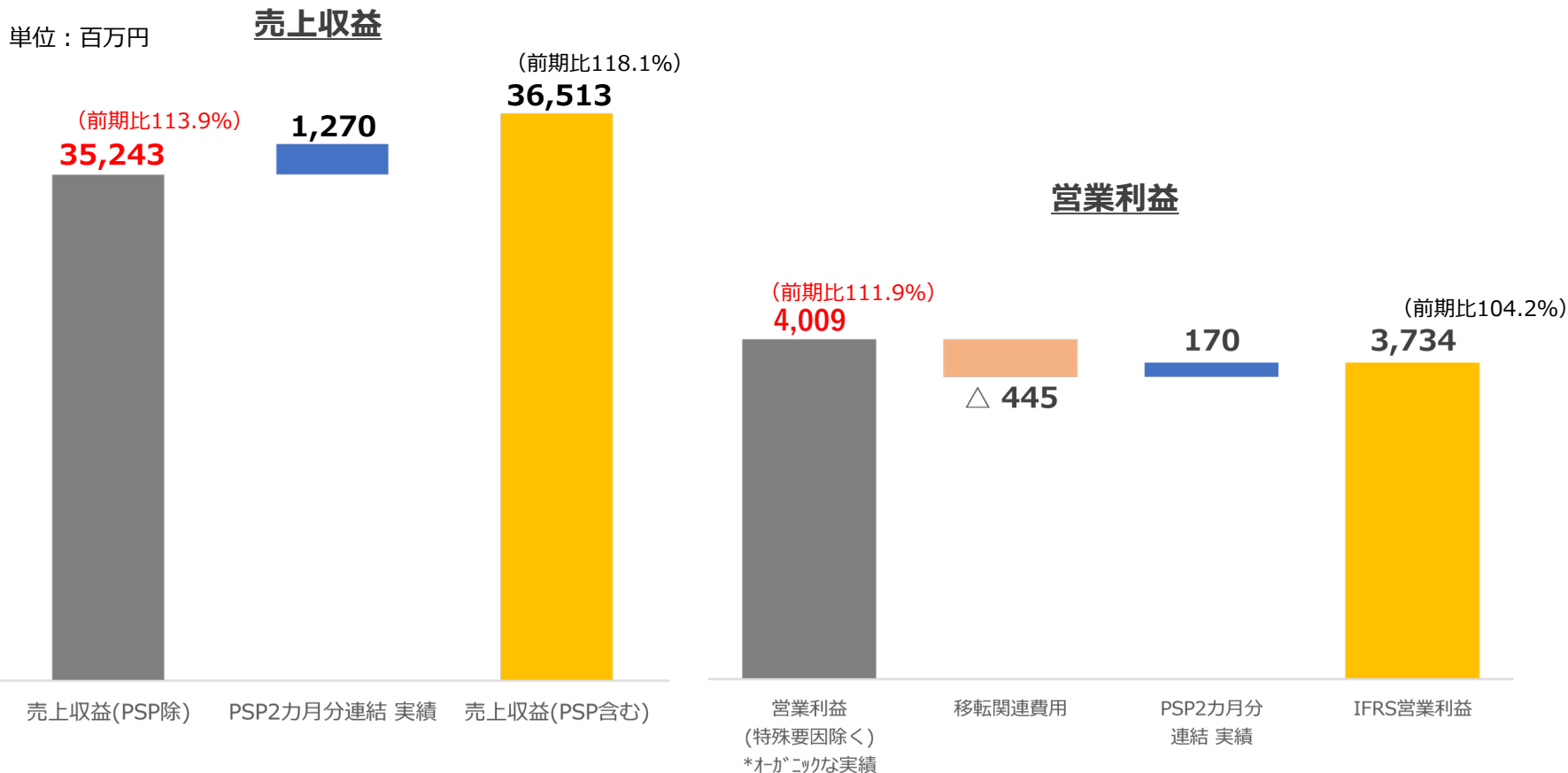
## ■ 売上収益…実質的な前期比 113.9%

※PSP株式会社の子会社化により、およそ12億70百万円を取り込み

## ■ 営業利益…実質的な前期比 111.9%

※PSP株式会社の子会社化により、およそ1億70百万円を取り込み

※移転費用として、およそ4億45百万円をIFRS基準による「その他の費用」として計上

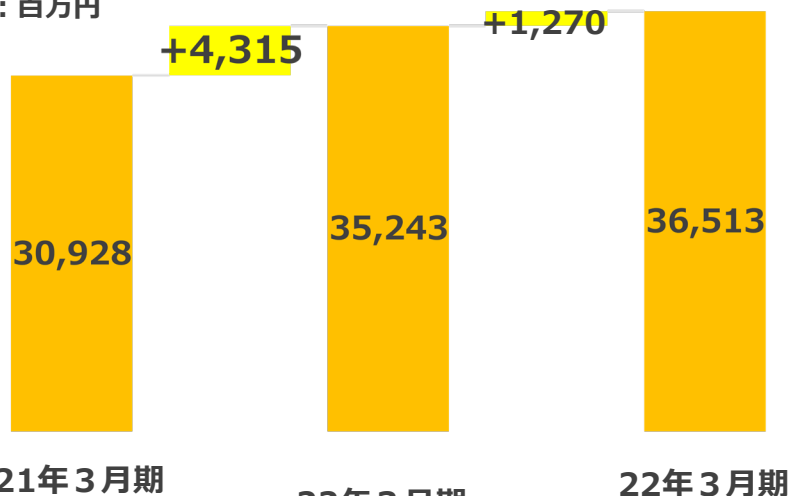






## 売上収益

単位：百万円



21年3月期

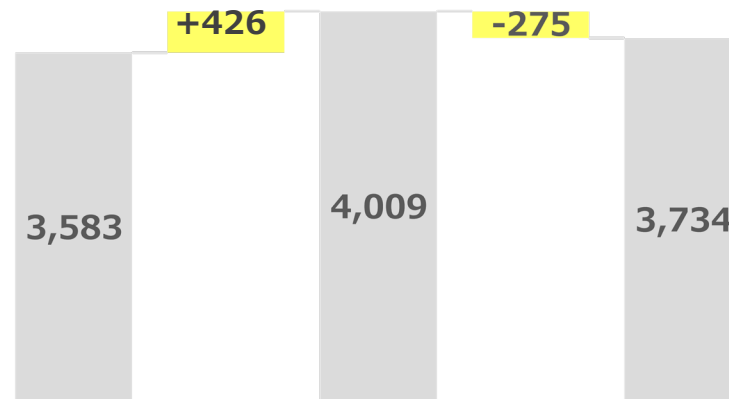
22年3月期

\* PSP子会社化による  
連結業績 計上前

22年3月期

## 営業利益

単位：百万円



21年3月期

22年3月期

\* 移転費用及び  
PSP子会社化による  
連結業績 計上前

22年3月期

(単位：百万円)

21年3月期

22年3月期

増減額

増減率

売上収益

(上段：PSP連結業績計上前)  
(下段：PSP連結業績計上後)

30,928

**35,243**

**36,513**

**+4,315**

**+5,585**

**+13.9%**

**+18.1%**

営業利益

(上段：移転費用・PSP連結業績計上前)  
(下段：移転費用・PSP連結業績計上後)

3,583

**4,009**

**3,734**

**+426**

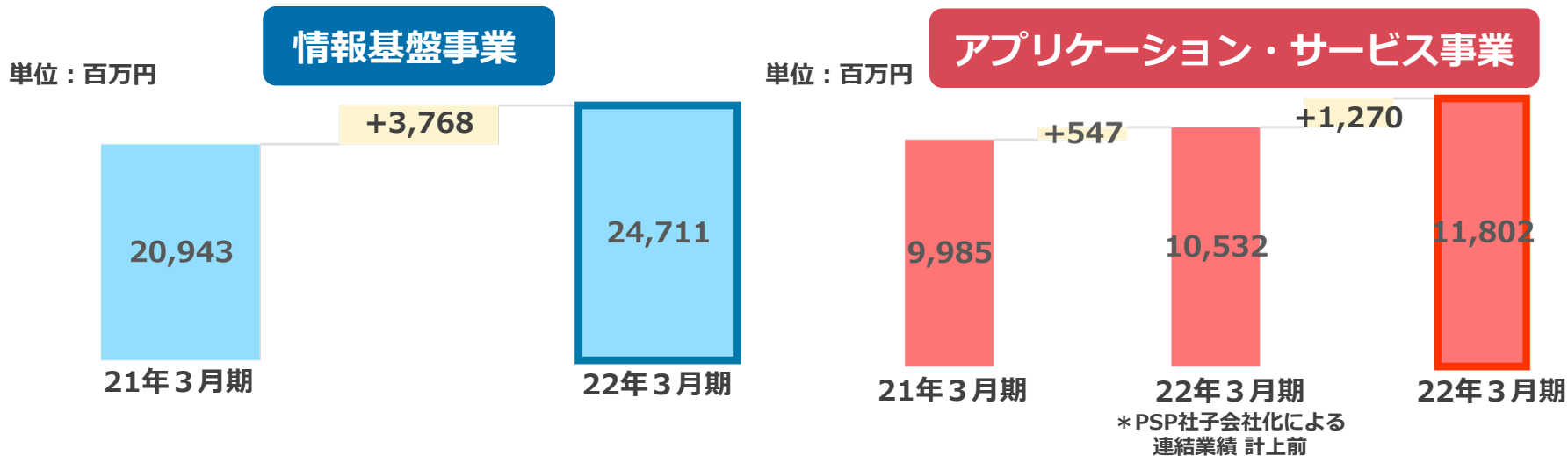
**+150**

**+11.9%**

**+4.2%**



- ◆ **情報基盤事業**：売上収益は過去最高を記録。SASE等のクラウド型のセキュリティ製品の引合いは堅調。統合監視サービスのTechMatrix Premium Support（TPS）は受注・売上ともに増加。
- ◆ **アプリケーション・サービス事業**：売上収益は過去最高を記録。CRM分野は受注状況が下期に回復し受注高の期初計画を達成した一方で、上期での受注の遅れ及びサブスクリプション型の契約の増加により前年比で減少。医療分野は堅調に推移。ソフトウェア品質保証分野は、製造業の投資意欲の回復に伴い前年比で増加。ビジネスソリューション分野は期初計画を達成。



(単位：百万円)	21年3月期	22年3月期	増減額	増減率
情報基盤事業	20,943	24,711	+3,768	+18.0%
アプリケーション・サービス事業	9,985	10,532	+547	+5.5%
(上段：PSP連結業績計上前) (下段：PSP連結業績計上後)		11,802	+1,817	+18.2%

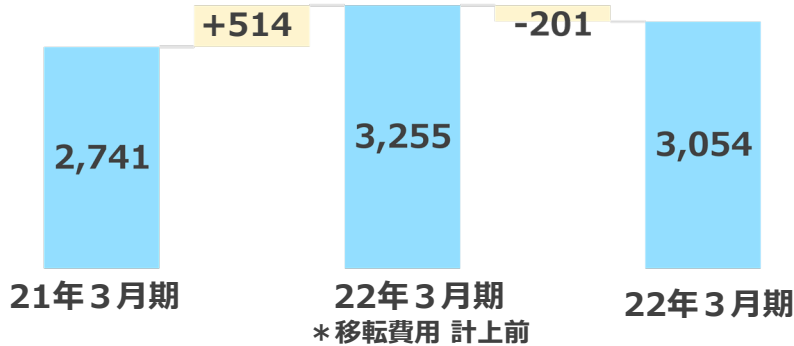


# セグメント別 連結営業利益（通期）

- ◆ **情報基盤事業**：営業利益は過去最高を記録。案件の大型化及び本社移転費用等の特殊要因の影響を受けたが、売上収益の拡大に伴い営業利益も増加。
- ◆ **アプリケーション・サービス事業**：営業利益は微減。本社移転費用、教育事業への投資等が主な要因。CRM分野は上期での受注の遅れにより前年比で減少。医療分野は堅調に推移。ソフトウェア品質保証分野はサブスクリプション型の契約が増加したため、収益計上が長期化傾向にあるが、概ね期初計画を達成。ビジネスソリューション分野は上期の不採算案件の損失を挽回し期初計画を達成。

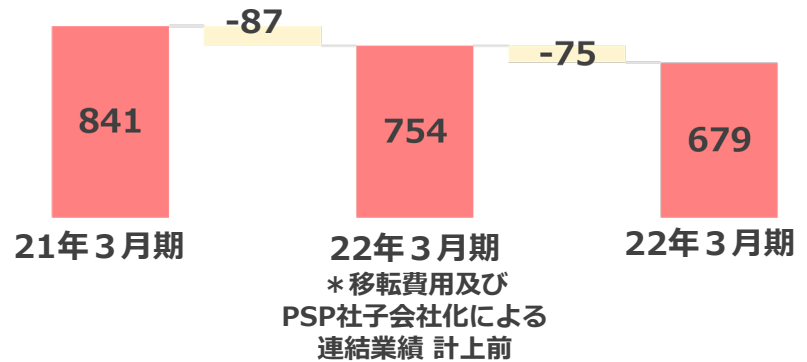
情報基盤事業

単位：百万円



アプリケーション・サービス事業

単位：百万円



(単位：百万円)

	21年3月期	22年3月期	増減額	増減率
情報基盤事業 (上段：移転費用計上前) (下段：移転費用計上後)	2,741	3,255 3,054	+514 +313	+18.8% +11.4%
アプリケーション・サービス 事業 (上段：移転費用・PSP連結業績計上前) (下段：移転費用・PSP連結業績計上後)	841	754 679	△87 △162	△10.3% △19.3%



- ◆ 連結受注高・連結受注残高共に、昨年度対比で情報基盤事業を中心に増加。

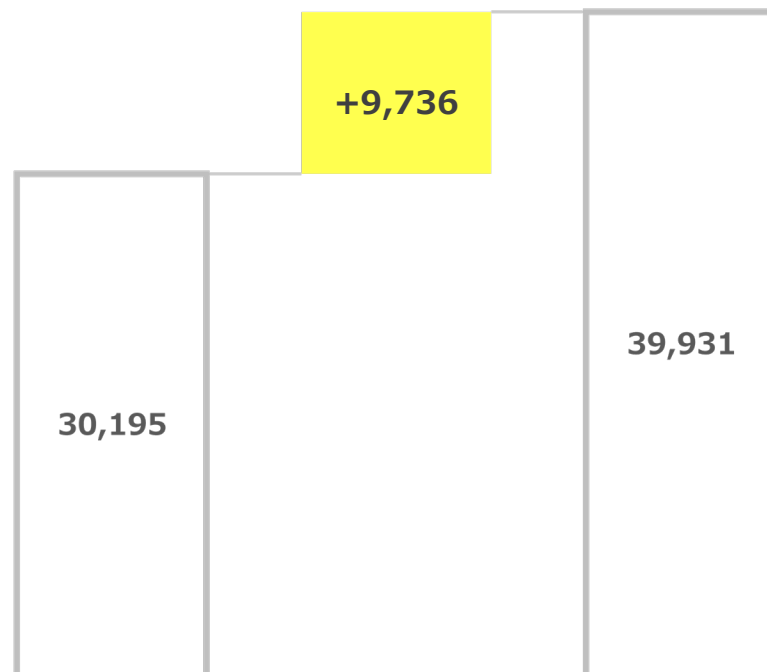
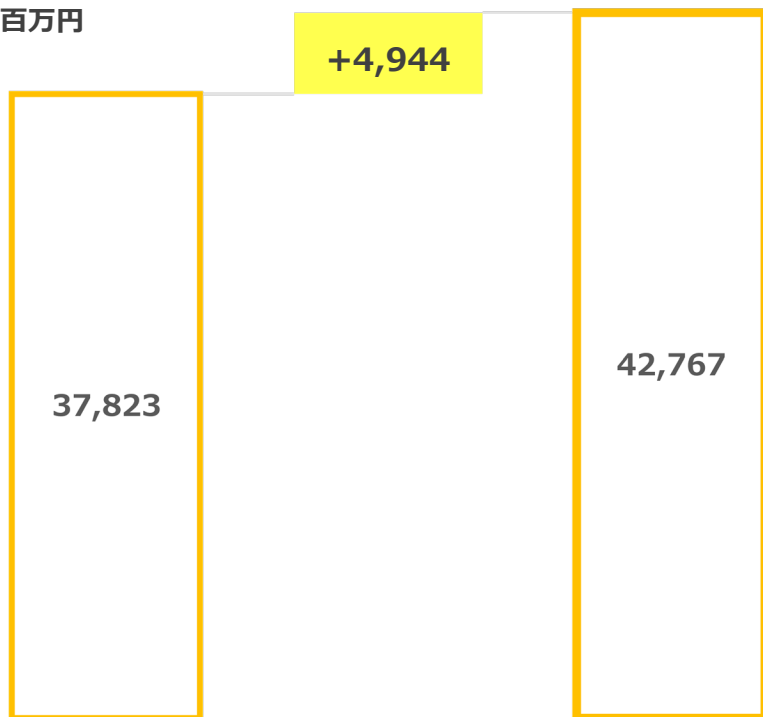
## 全社合計

### 受注高

### 受注残高

単位：百万円

単位：百万円



21年3月期

22年3月期

21年3月期

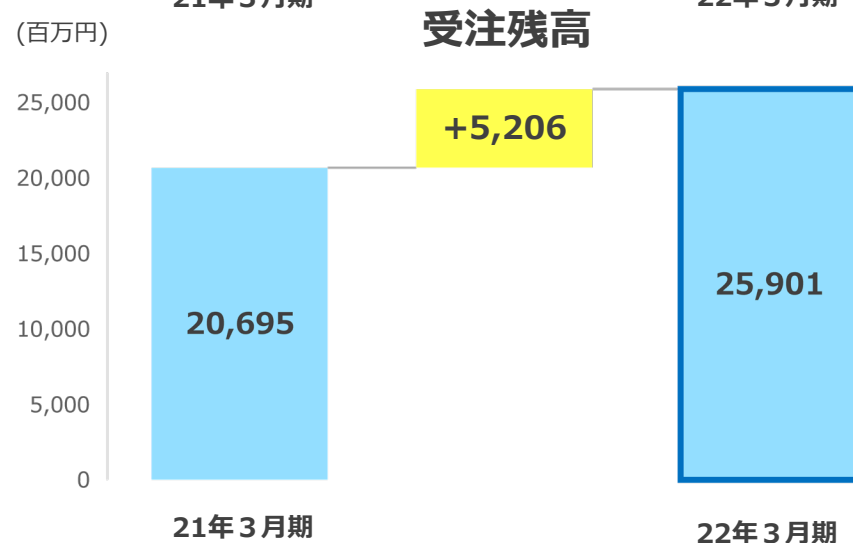
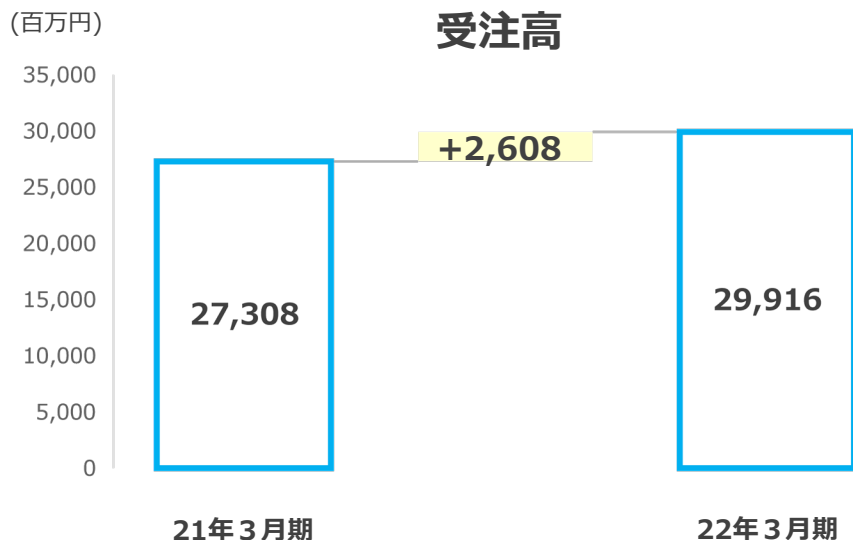
22年3月期

\* IFRS適用に伴い、前年度受注高及び受注残高について、当事業年度より連結化したA-Line社及び山崎情報設計の金額を算入して表示しております。

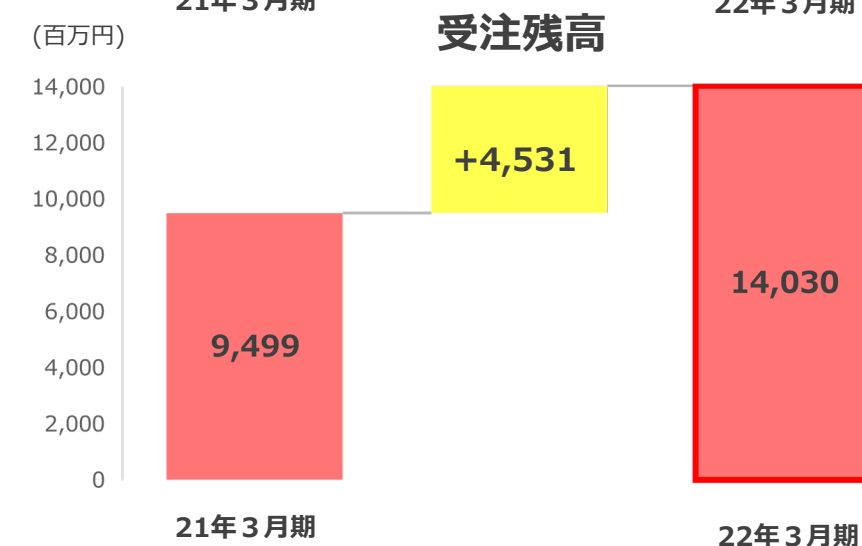
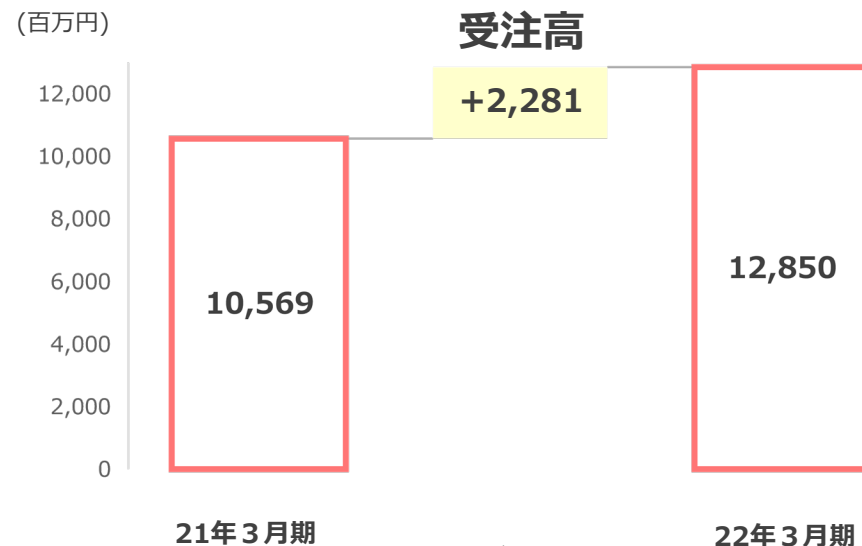


# 受注高と受注残高（連結）

## 情報基盤事業



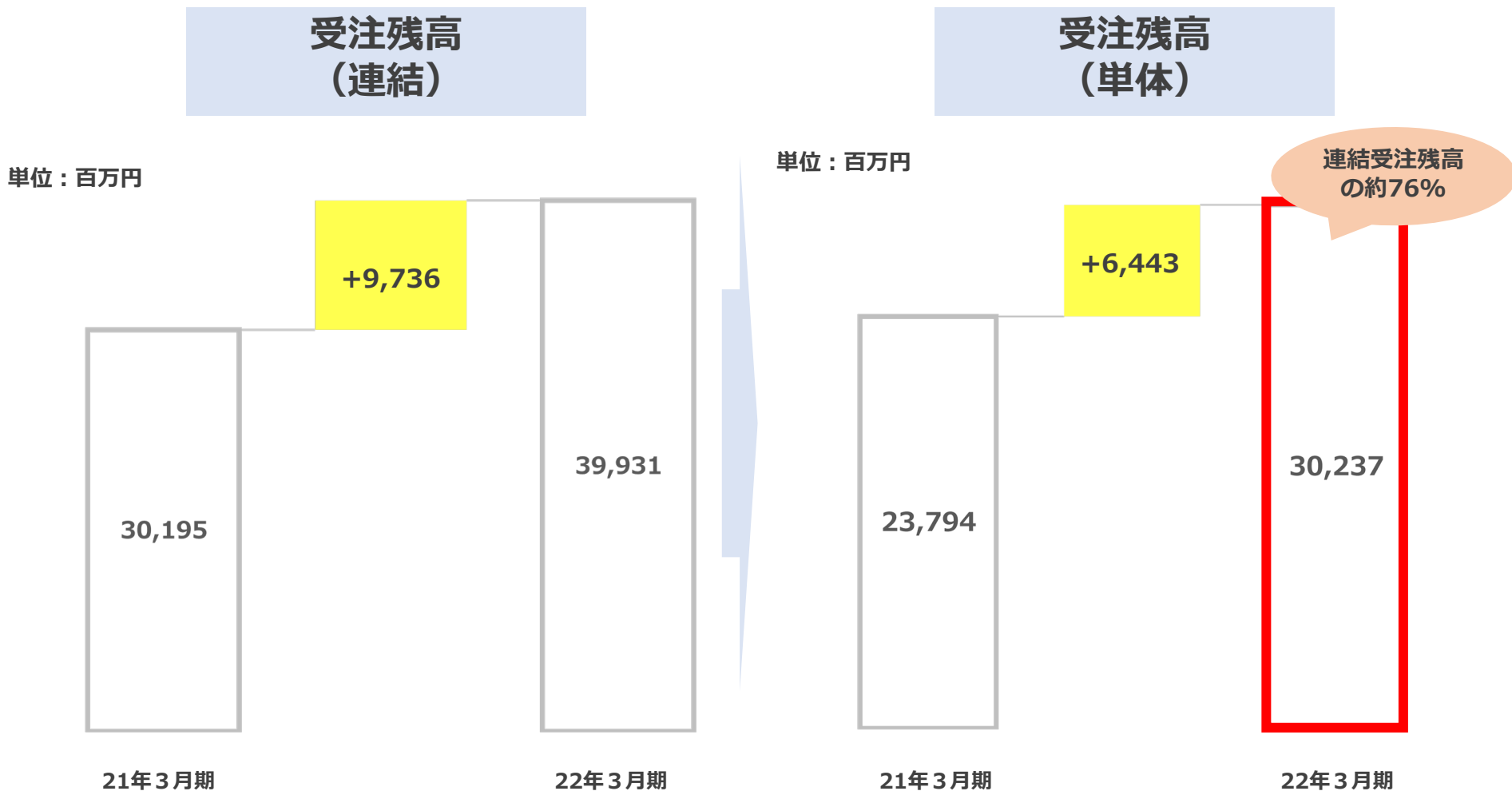
## アプリケーション・サービス事業



\*IFRS適用に伴い、アプリケーション・サービス事業の前年度受注高及び受注残高について、当事業年度より連結化したA-Line社及び山崎情報設計の金額を算入して表示しております。 12



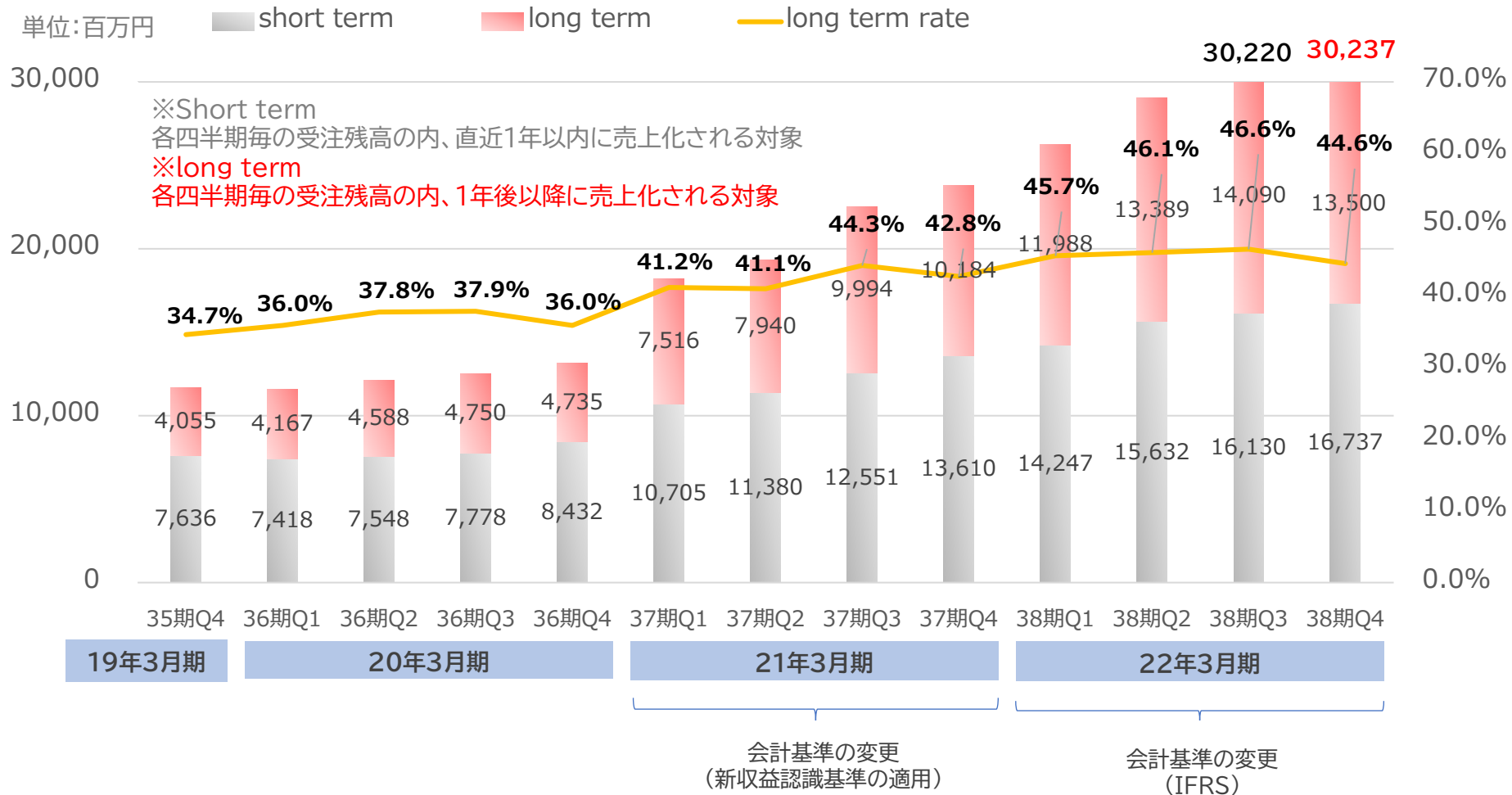
◆ テクマトリックス単体での受注残高の状況は以下のとおりです。





# 38期Q4時点 受注残高 (単体全体)

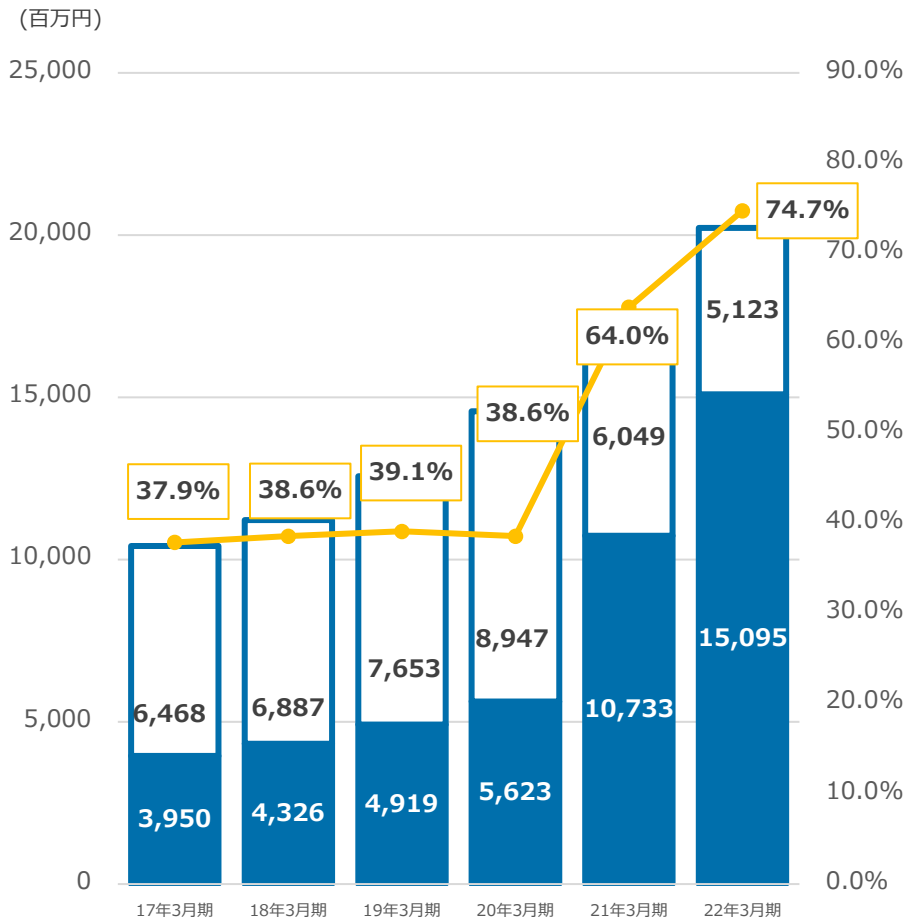
◆ テクマトリックス単体での受注残高の内訳は以下のとおりです。





# ストック比率の進捗状況 (単体+旧株式会社NOBORI)

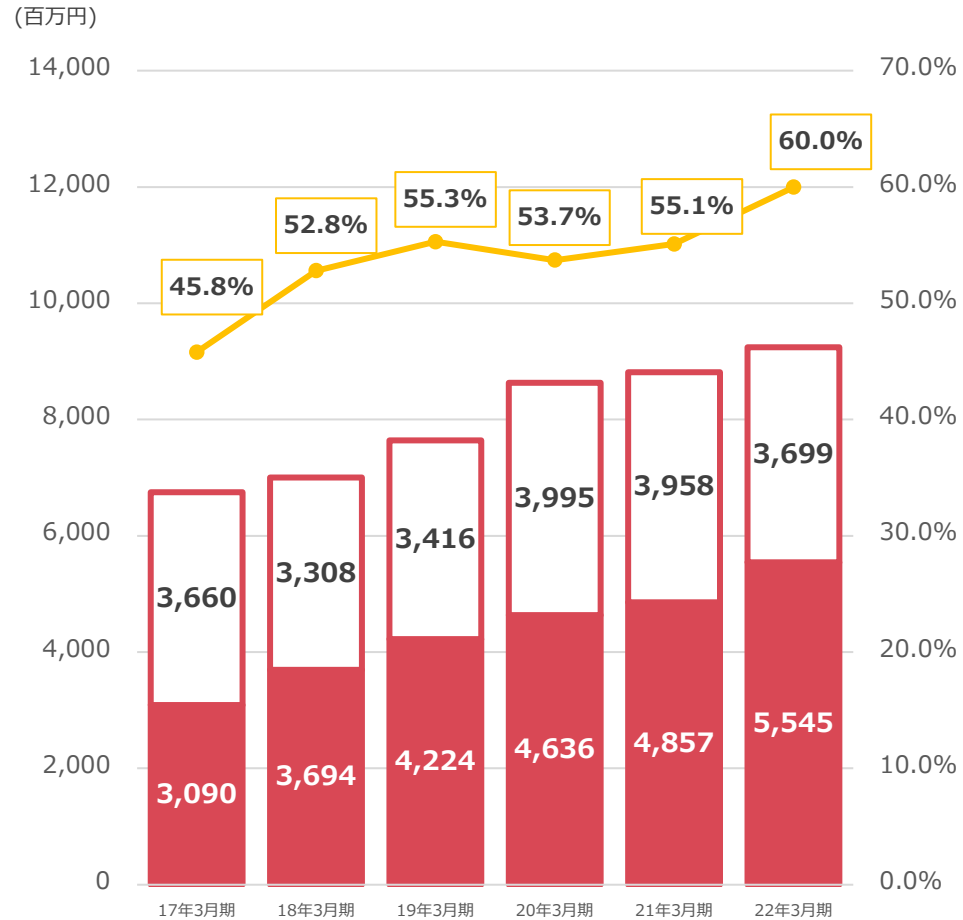
## 情報基盤事業



■ ストック □ 非ストック ● ストック割合

\* 21年3月期に新収益認識基準適用により、これまでフローとして計上していた売上（保守一体の製品販売や一部のサブスクリプション型）を厳格にストック計上。これにより、情報基盤事業のストック比率が向上。

## アプリケーション・サービス事業



■ ストック □ 非ストック ● ストック割合

\* 21年3月期に新収益認識基準適用により、これまでフローとして計上していた売上（主にテストツールの売上）を厳格にストック計上。従前からのクラウドビジネスの積み上げも奏功し、アプリケーション・サービス事業は、ストック比率が向上。





## 2. 2023年3月度 連結業績予想

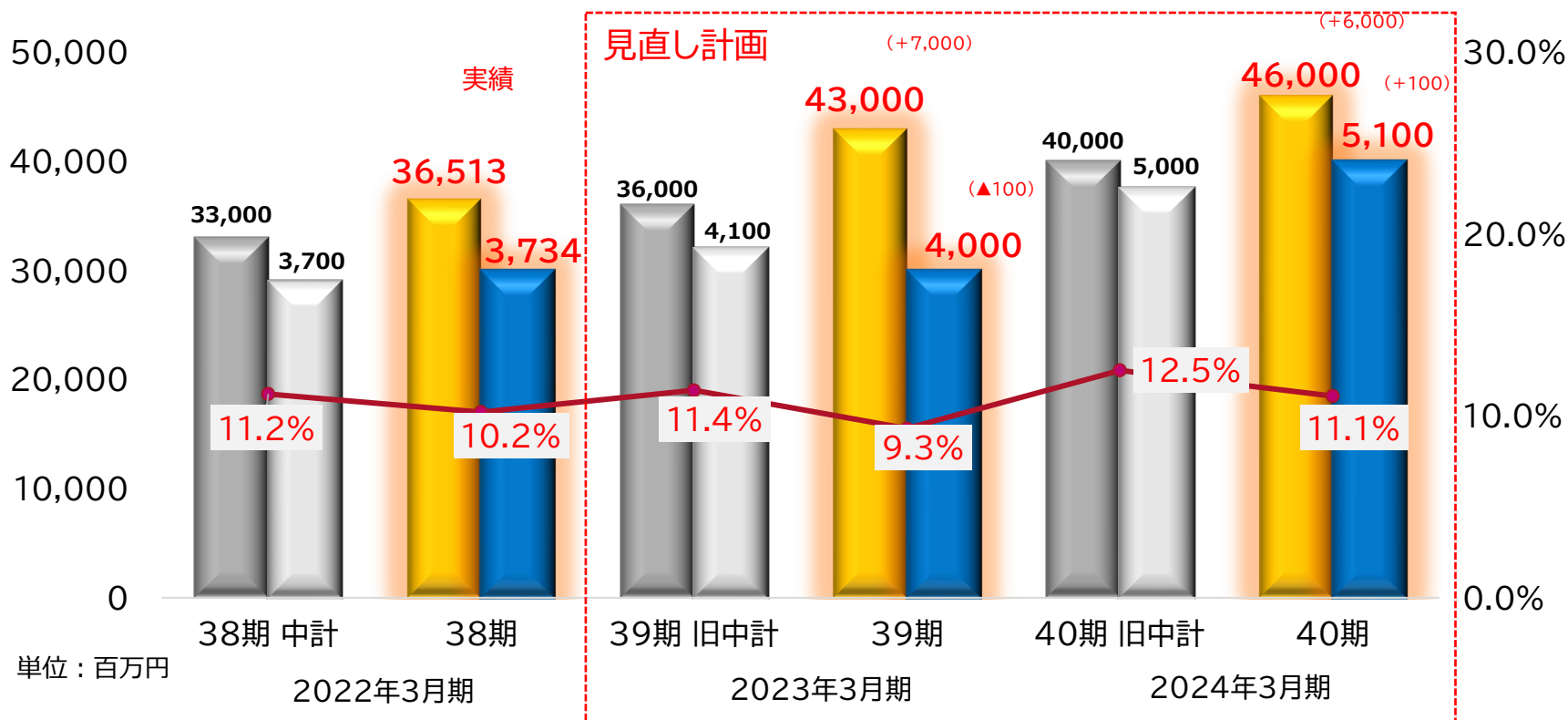


## ◆中期経営計画の業績計画の見直し理由

先期に連結子会社化したPSP株式会社と株式会社NOBORIの経営統合により、2022年4月1日に**当社連結対象子会社**として新生PSP株式会社が発足。それを受け、**中期経営計画の2年目、3年目の業績計画**の見直しを実施。

統合会社は**ストック型ビジネスへの転換**を目的に、医用画像管理システム（PACS）の**クラウドシフトを推進する**予定。クラウドシフトの推進は、**短期的な売上・営業利益の減少要因**となるが、**将来を見据えた経営判断**として断行を予定。また39期においては、運送費や廃棄費用、新オフィス造作時の二重家賃など、追加で**本社移転費用およそ2億円**を算入した。

■ 売上 ■ 営業利益 ● 営業利益率





サイバーセキュリティ対策製品・サービスに対する継続的な需要の高まりを考慮して計画を見直し。

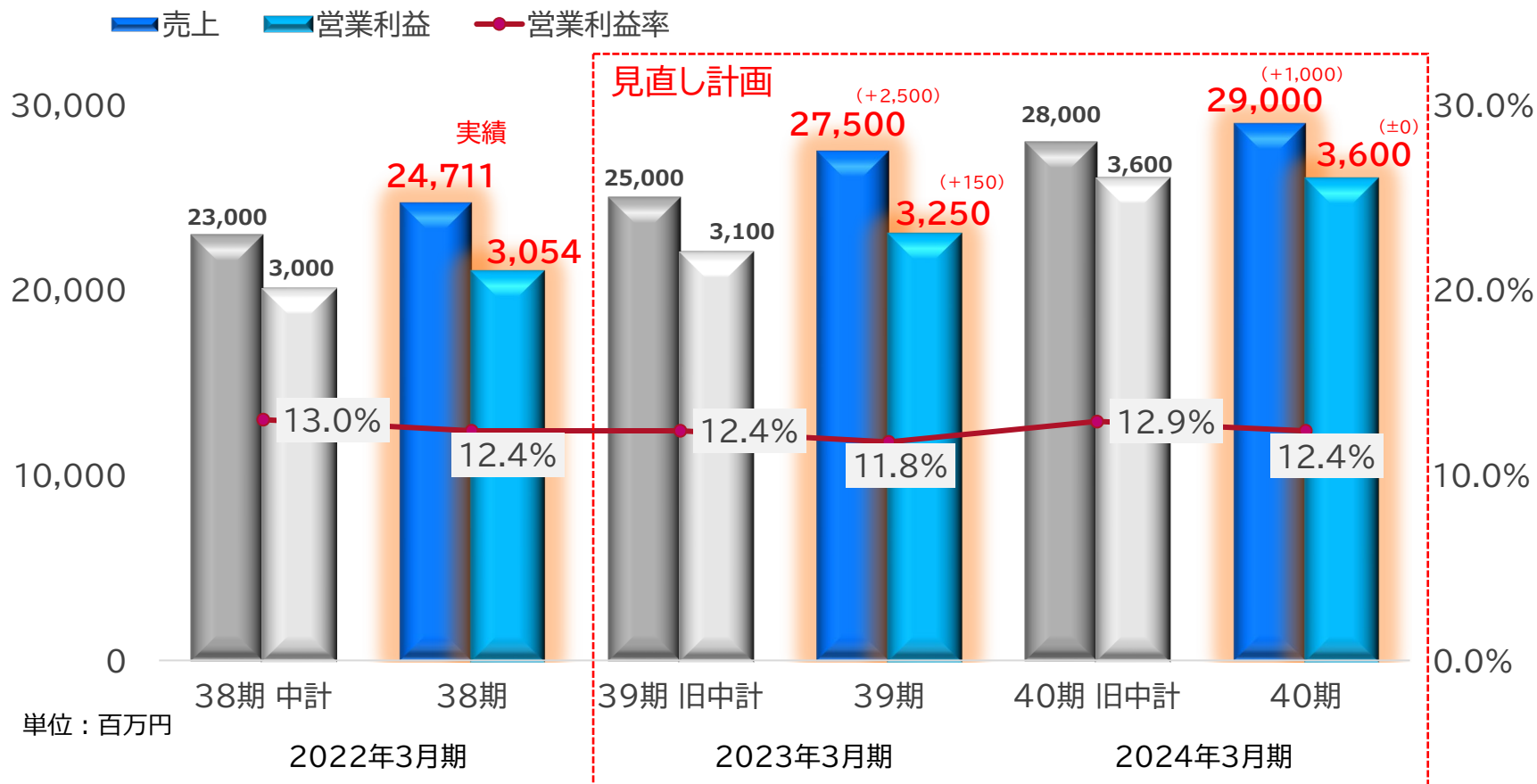
◆売上収益：

クラウド型のセキュリティ製品の需要トレンドを考慮した計画の見直し

◆営業利益：

統合監視サービスの（TPS）の需要トレンドを考慮した計画の見直し

**※本社移転費用を吸収した上で、営業利益の計画値を上方修正。**





本社移転費用と医用画像管理システム（PACS）のクラウドシフトの推進を考慮して計画を見直し。

◆売上収益：

PSP株式会社の連結による増加

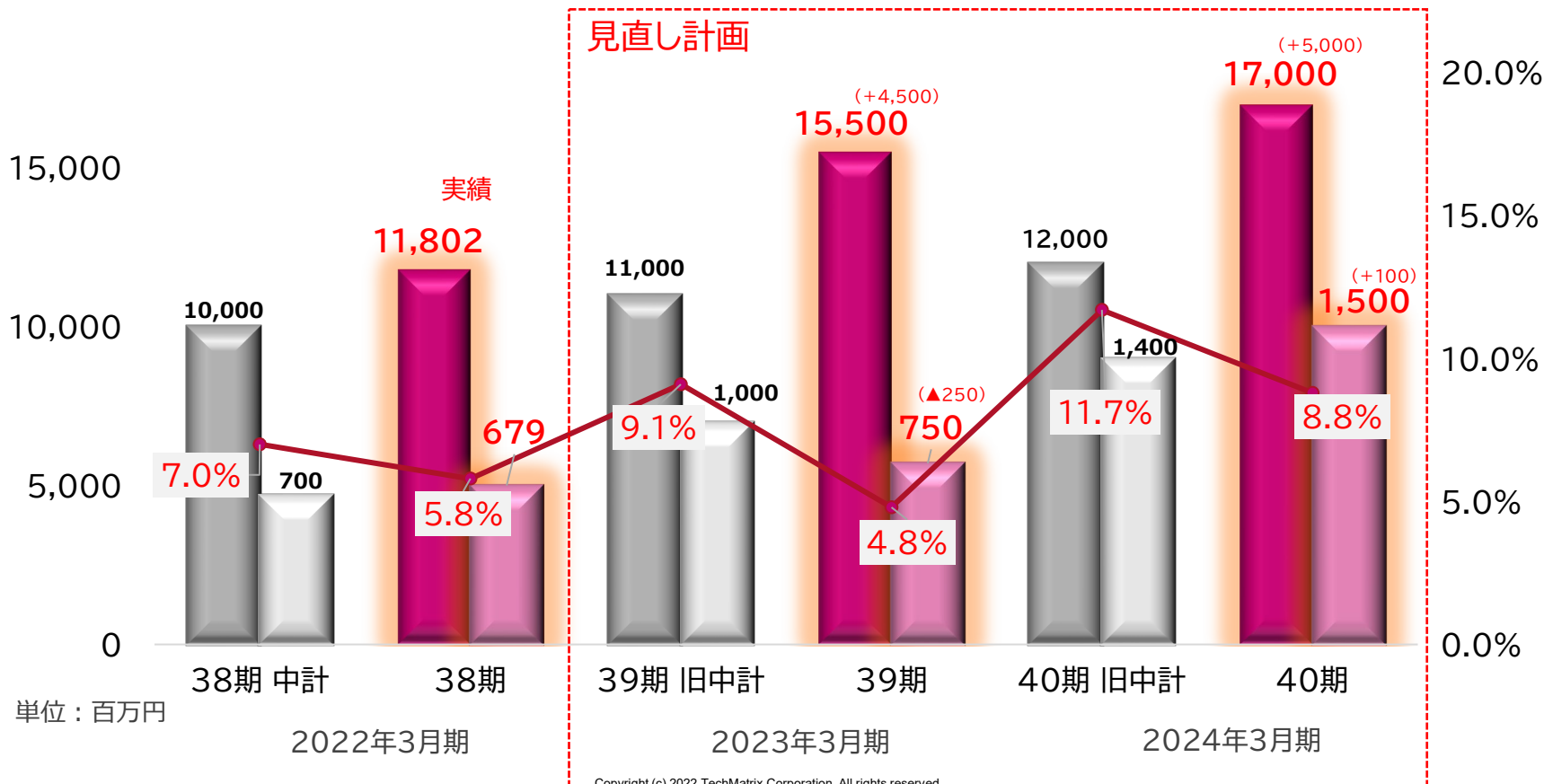
◆営業利益：

本社移転費用の発生

教育事業に対する投資の継続

旧PSP株式会社の既存導入先施設に対するクラウドシフトの推進

■売上 ■営業利益 ●営業利益率





<本資料の取り扱いについて>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあり得ます。

従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。

<お問合せ先>

テクマトリックス株式会社 経営企画課 TEL:03-4405-7802 [ir@techmatrix.co.jp](mailto:ir@techmatrix.co.jp)